

みんなの広場

伊万里実業高校フードプロジェクト部がNPO法人へ絵本を寄贈 活動の成果を子どもたちにつなぐ

伊万里実業高校フードプロジェクト部3年生の中島悠月^{ゆづき}さんが、第5回高校生が描く『明日の農業コンテスト』で、全国550点の応募の中から銀賞を受賞しました。副賞の図書カードで、子どもたちの学びや部の菓子づくりなどの活動を理解してもらえるような絵本23冊を購入し、NPO法人こすもす村(脇田町)の子どもたちに寄贈しました。



↑中島さん(左から3人目)とフードプロジェクト部メンバーから法人代表の牧瀬紀子さん(右から2人目)へ絵本を贈呈

子どもたちの『アユの放流体験』事業 きれいな有田川を守ろう

川東保育園の年長児18人と保護者が、有田川(二里町)であゆ約1000匹を放流しました。魚と触れ合うことで、有田川に親しんでもらおうと、二里町元気なまちづくり推進協議会が企画。清流にしかすめないあゆを守り、環境の大切さを学ぶとともに、子どもたちが大人になって、帰ってきたいと思えるまちづくりを目指して行われました。



↑伊万里西ロータリークラブが提供したあゆを「大きくなってね」と放流する園児たち

地域とつながる魅力ある学校づくり事業 伊万里高校生が夏休みの宿題をお手伝い

伊万里高校で、夏休みの恒例行事『伊高寺子屋』が開催され、市内小学校3～6年生の児童約220人が参加しました。講座の内容は、習字や工作・カブトガニ教室などと多様で、伊万里高校の生徒が企画し運営。自分の手形をオブジェにする工作教室に参加した大川内小学校5年生の児童は、「難しかったけど、楽しかった」と話しました。



↑小学生に手形オブジェの制作を指導する、真剣なまなざしの伊万里高校生(右)

伊万里のいきもの展～いきもののせかいも ふしぎがいっぱい～ 触れて見て学ぶ 夏休みの思い出

市歴史民俗資料館で、伊万里のいきもの展を開催し、動物標本など約200点や、市内で採集された淡水魚やカブトムシなど約10種を展示しました。訪れた子どもたちは、さまざまな剥製や化石などを前に、職員へたくさんの質問を投げかけていました。また、植物を育てることで生命の大切さを学んでほしいと、希望者にオジギソウを配付しました。



↑実際に触ることができるタッチコーナーは大人気

『第4回イノピカプロジェクト in 川内野』点灯式
ゆっくり歩いて楽しんで

地元住民と佐賀大学の学生が連携し、地域資源を活かした交流事業『第4回イノピカイルミネーション in 川内野』の点灯式が、東山代町の夢耕房たきのと周辺の圃場ほしやうでありました。イノシシ除けのワイヤーメッシュを電飾で彩ったもので、約400mにわたり輝いています。イルミネーションは、12月末頃まで楽しむことができます。



雨天のため、点灯式はリモートでの開催となりました



↑ワイヤーで描いた動物の一筆書きのイルミネーションも新しく登場しています

伊万里湾岸清掃ボランティア
美しい伊万里湾を未来に残すために

毎年『海の日』に開催される伊万里湾岸清掃が、ボランティア約200人の参加で実施されました。この日は、釣具店などが所属する日本釣振興会佐賀県支部をはじめ、各種団体や広報紙での呼びかけを見て参加した家族、高校生などが、炎天下の中、1時間作業。市内11か所で約320kgのごみを回収し、すがすがしい汗を流していました。



↑汗だくになりながら、浦之崎港やイマリビーチなどの清掃作業を行い、楠久津公園に集合した参加者の皆さん

市民センターカルチャー講座
作るって楽しいね

3日間ずつで構成されたカルチャー講座を開催し、親子お菓子づくり教室では、菓子店から講師を迎え、『卵を使わないガナッシュサンドクッキー』づくりなどに挑戦。また、親子焼き物づくり教室では、伊万里・有田焼伝統工芸士を講師として、下絵付けやろくろ、上絵付けに挑戦。参加者は、親子でアドバイスをし合いながら、楽しく完成させました。



生地を麺棒でのばして、丸形とハート型に型取り。みんなで協力しながら、完成を目指します



↑講師に教わって、試行錯誤しながらも器などのこだわりの作品が生まれました

佐賀大学海洋エネルギー研究センター伊万里サテライトラボ
海にはロマンとエネルギーの未来がある

海洋温度差発電実験装置などがある『佐賀大学海洋エネルギー研究センター伊万里サテライト（山代町）』で、施設見学会がありました。コロナ禍での開催により、360度カメラを使った施設紹介や講義の録画動画などのオンライン配信を併せて実施。佐賀大学の今井康貴やすたか准教授は「最先端の研究施設を見て、学んでほしい」と呼びかけました。



↑海洋温度差発電模擬装置の説明を受ける佐賀市から参加した親子